

第20回東北六県・北海道商工会

青年部員交流研修会

主張発表大会で

高橋秀彰さん 最優秀賞!

由利本荘市 商工会青年部 が

東北六県・北海道商工会連合会連絡協議会・青年部連合会連絡協議会主催の標記大会並びに主張発表大会東北・北海道ブロック大会が平成25年10月23日に青森県の「ホテル青森」で開催されました。

主張発表大会では、秋田県代表として伊藤建友株式会社の高橋秀彰さん(由利本荘市商工会青年部)が出席し、見事「最優秀賞」を受賞し、全国大会出場の切符を手に入れました。本県としては平成20年度以来3人目の快挙となりました。高橋さんは「青年部活動に参加して10年間の活動を振り返り」と題し、「自分たちの事業が地域から必要されると実感した。青年部活動を通して相手側の目線で考え行動ができるようになった。青年部活動が自分を成長させてくれた」などの内容で発表しました。

また、研修会では開催地青森県内の青年部による活動事例発表が行われ、本県参加者も今後の青年部活動への参考にしようと真剣に耳を傾けていました。



最優秀賞の高橋秀彰さん



秋田県青連参加者

第15回 商工会青年部全国大会 (埼玉大会)

平成26年2月4日、5日に、埼玉県のさいたま市の「さいたまスーパーアリーナ」及び「大宮ソニックシティ」において、「第15回商工会青年部全国大会」が開催され、全国から約5,200名、本県からは62名の商工会青年部長等が参加しました。

大会一日目は、初めに式典が行われ、組織及び事業推進について優秀な青年部に対し全国大会顕彰が、青年部功労者に対し感謝状がそれぞれ授与され、顕彰では本県のよこて市商工会青年部が「地域まらちづくり部門」で、感謝状は美郷町商工会青年部前部長の高橋龍請さんが受賞しました。続いて、主張発表大会全国大会が開催され、本県の高橋秀彰さん(由利本荘市商工会青年部)が、東北・北海道ブロック代表として出場しました。残念ながら最優秀賞は逃しましたが、全国の「仲間」へ熱い思いを伝える堂々とした発表を行いました。(最優秀賞は近畿ブロック代表・和歌山県古座川町商工会青年部森武志さん)

2日目は、大会参加者間のビジネスチャンス創造の場として商人(AKINDO)商談会、全国で部員増強運動で大きな成果を挙げている青年部の成功事例発表等が行われ、最後は全国の都道府県青連会長が登壇し、フィナーレを迎えました。



堂々の発表をする高橋秀彰さん



秋田県青連参加者



世界に広がる日本の食文化 =うどん・そうめん・そばの輸出動向=

秋田県商工会連合会 嘱託専門指導員 吉田健一氏 寄稿

平成25年12月、「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録になり、日本食・食文化の海外展開は更なる発展・普及が期待されます。

登録された日本の食文化の特徴として、①多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重、②栄養バランスに優れた健康的な食生活、③自然の美しさや季節の移ろいの表現、④正月などの年中行事との密接な関わり、の4項目が内容となっております。

「うどん・そうめん・そば」通の方なら、出汁や薬味の種類など、「こだわり」を持っているのではないかと思います。

こうした「出汁の文化」や「薬味の文化」も「うどん・そうめん・そば」などの食材があって成立する文化。そこで今回は、「うどん・そうめん・そば」の輸出動向を調査しました。

財務省貿易統計から「うどん、そうめん及びそば(加熱による調理をし、詰物をし又はその他の調整をしたものを除く)」:輸出統計品目番号(1902.19-200)を調べると、2013年における全国の輸出金額は29億3百万円(輸出数量は10,424トン)でした。過去5年間の輸出金額の傾向を見ると、約32億円から28億円の間で推移しております。(グラフ1参照)

また、2013年における全国の仕向国別シェア(金額ベース)では、1位がアメリカ合衆国(34.1%)、2位が香港(25.1%)で、1位と2位で全体の約60%を占めていることがわかります。次いでシンガポール(8.5%)、台湾(5.8%)、オーストラリア(3.1%)の順になっております。

なお、2009年における仕向国別シェアとの比較においては、順位はほ

ぼ同様の結果でした。(グラフ2参照)

2013年における「うどん・そうめん・そば」の輸出相手国・地域は50か国となっており、今後も日本食レストランやスーパーの拡大が期待されることから、更なる輸出拡大につながるものと考えます。

【グラフ1】「うどん・そうめん・そば」全国の輸出金額推移(全国分)



【グラフ2】「うどん・そうめん・そば」仕向国別輸出(金額)シェア(全国分)

